

いこもの風

瀬戸内町立伊子茂小・中学校 児童生徒数							総計	令和4年 2月21日現在
小1	小2	小3	小5	中1	中2	中3	24名	
1	2	3	2	8	2	6		

【2月号】 令和4年2月21日発行 伊子茂小・中学校 TEL 76-0018

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

校長 櫻井 登

標題は、全国の小・中学校で使用しているすべての教科書の裏表紙に書かれているものです。先日の全校朝会で、「一人一台タブレットの持ち帰り」と掛け合わせて子どもたちに、その真意を話しました。

「教科書無償」の歴史を紐解くと、『部落問題・人権事典』に次のように書かれています。(抜粋・編集)

教科書・教育費無償を求める闘いは戦前からあり、その決定的な闘いは、1961年から始まる高知市の長浜の教科書無償闘争である。

土佐湾にのぞむ半農半漁のH地区は、仕事らしい仕事に恵まれない母親たちの多くが失業対策事業に出て働いていた。当時の〈失対〉は1日働いて約300円。教科書代は小学校で当時約700円、中学校になると約1200円。〈失対〉で働く親たちにとっては、かなりの負担であった。そのころ母親たちは、学校の教師と学習会をもっていた。憲法を学習している際に、〈すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育は、これを無償とする。〉とあることを学び、権利意識にめざめていく。

こうした母親たちの要求を軸に、〈長浜地区小中学校教科書をタダにする会〉を結成、地元の熱心な小・中教師たちの協力を得て集会を開き、署名活動に取り組み、多くの団体にも働きかけた。

・中学校2000人の児童・生徒のうち1600人の家庭が署名した。このような動きを受けて高知市議会も、小・中学校の教科書を無償にするよう内閣総理大臣や文部大臣あてに〈意見書〉を提出している。〈タダにする会〉から要求を突きつけられた高知市教育委員会は、憲法に定められた無償の原則は認めるが、一自治体の力にはあまるとして、これを拒否。しかし、交渉につぐ交渉で詰められて、新学期までには教科書を無償で渡すと約束するが、新学期に入る直前に、約束をホゴにし総辞職、かわって市長が事態の解決にあたり、約束、またホゴという状態が続いたとき、すでに新学期から1カ月が経過。〈タダにする会〉に反対する勢力も組織を作り、部落差別をあおって攻撃をかけてくるなかで、子どもたちも教師も、教科書なしでともに闘っていたが、脱落して教科書を買う家庭も増え、プリントでは授業が続けられなくなる。

収拾にのりだした市議会革新議員団の斡旋案によって、高知市全体で3倍、長浜は5倍(200人分)の大幅な無償枠の拡大をかちとり、涙をのんで闘いを打ち切る。そして部落の親たちは翌年もまた闘いにたちあがる。

この闘いには、部落大衆をはじめ、貧しい民衆の熱い要求がこもっていた。憲法の精神にも合致している。国会でもさすがに大きな問題であるとして取り上げられ、文部省1963年12月〈義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に関する法律〉を成立させた。部落解放運動や教組の長い闘いが基礎となって、ついに、教科書無償が全国的に実現したのである。1969年にかけて、各学年へ順次枠を広げ、小・中学校全体が無償となった。

1961年から実に8年がかりのことであった。

「普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育は、これを無償とする。」からの〈長浜地区小中学校教科書をタダにする会〉の闘いにより8年がかりで実現した「教科書無償化」は、その真意をしっかりと理解して、教科書を大切に使わなければなりません。そして、このことは、すべてのものを大切にする気持ちにも繋がると思います。

また、本年度からは「一人一台タブレット」が配備されました。これに伴って、今後、「タブレットの持ち帰り」もすすめていきます。先日、本校では、中学生に注意事項を指導した上で、試験的に持ち帰らせました。返却日の全校朝会では、再度、次のような点について確認をしました。

- ・タブレットの破損が無いように丁寧に扱い、家から持ち出さないようにしましょう。
- ・持ち帰った際の不慮の故障等は補償が適応されますが、破損の原因によって、保障対象とならずに修理費用が発生する場合があります。
- ・目的以外の利用はしないようにしましょう。
- ・ID、パスワードは他の人に教えてはいけません。
- ・児童・生徒間での連絡に、使ってはいけません。

最後に「このタブレットは、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償でレンタルされています。大切に使いましょう。」で、話を締めました。

学校保健委員会

2月4日に、南の島の助産院の加〇〇〇江先生に「おうちで伝えるいのちのおはなし」という演題で御講話いただきました。

参加されたお母さん方といっしょに、性教育の大切さや素晴らしさについて再認識するとともに、子どもとの関わり方について考える良い機会となりました。(保護者の感想を裏面に掲載しています。)



コサージュづくり

2月4日は、引き続き、家庭教育学級を行ない、卒業生と新入学生へのコサージュづくりをいっしょに楽しみました。

笑顔と笑い声いっぱいの中で、完〇〇〇子さんのアドバイスをもとに創意工夫しながら、真心を込めたかわいかわいいコサージュができあがりました。



3月の主な行事

- 3日(木) 公立高校一般入試(～4日(金))
- 3日(木) 中1・2: 職場訪問(西田製糖工場)
- 8日(火) 授業参観, 学級PTA, 舞台設置
- 15日(火) 伊子茂中学校第60回卒業式
- 25日(金) 修了式
- 28日(月) 離任式(8:40～体育館)

※ 裏面を御覧ください。2月15日に、南日本新聞の「若い目」と「南風録」に、中学3年生の宮〇〇奈さんと新〇〇〇らさんの記事がそれぞれ掲載されました。